

平成 29 年度

事業所名 : グループホーム めぐまるの家

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390100329		
法人名	有限会社 めぐまるの家		
事業所名	グループホーム めぐまるの家		
所在地	盛岡市北山1丁目16番15号		
自己評価作成日	平成 30年 2月 10日	評価結果市町村受理日	平成30年5月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kai.gokensaku.mhl.w.go.jp/03/1/ndex.php?act=on_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;Ji_gyosyoCd=0390100329-00&amp;PrEfCd=03&amp;VerSi_onCd=022">http://www.kai.gokensaku.mhl.w.go.jp/03/1/ndex.php?act=on_kouhyou_detail_2017_022_kani=true&amp;Ji_gyosyoCd=0390100329-00&amp;PrEfCd=03&amp;VerSi_onCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通二丁目4番16号
訪問調査日	平成 30年 2月 21日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「同じ時を過ごし、心通わせ、笑顔あふれる家庭を創る」を事業所理念に掲げ、事業者側の都合や職員の都合にならないように、入居者一人ひとりのペースを大切に、個々のやりたい事、できる事を見つけ、尊重しながら支援し共に生活をしています。最期の時までその人らしく生活をし、一緒に過ごしていきたいという思いがあり、看取りも行っていきます。法人で訪問看護ステーションを立ち上げたことにより、医療連携が充実し、健康面においても安心できる環境が整っている。

当事業所は、住宅密集市街地に立地し、階下に小規模多機能「与願寿(よがんす)」が併設される開設5年の節目を迎えたグループホームである。職員と共に作り上げたホームの理念を掲げ、笑顔・ご縁・望む終活・チームケア等をキーワードとする行動指針の下に、利用者一人ひとりの機能やペースに添った支援で、和やか穏やかな暮らしを実現できる終の棲家としている。運営推進会議は「与願寿」と合同で開催し、地域の情報、家族の意見、関係機関の助言を得て地域の作品展覧会や運動会に参加し、地域交流の場と輪の拡大に努めている。子供同伴勤務や時間外会議時の子ども見守りなど、女性の働きやすい職場として「働き方改革盛岡市長賞」を介護業界で初めて受賞している。ホーム内での子供の声や表情は利用者の笑顔や活力の源とする、今後益々期待でき楽しい事業所である。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

事業所名 : グループホーム ぬぐまるの家

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	職員全員で意見を出して考えた事業所理念を見える場所へ掲示し、共有して実践につなげている。	「心通わせ、笑顔あふれる家庭」の理念を事務室に掲示し、カンファレンスで振り返り再確認している。意思を表現できない利用者も話しかけを続ければ言葉や動作で意思を表示し穏やかな表情や笑顔が見られる、としている。理念は日常の支援のなかで実践されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	天気の良い日は近所を散歩し、挨拶を交わしたり、庭の花を見せていただいたりと交流をしている。また、週2回スーパーへ買い物へ出掛けている。	町内会に加入し、毎年開催される芸術祭や作品発表会、地区センター主催の運動会に参加している。地区内初めての施設の事業所であり近隣住民の理解を得るため、散歩中の挨拶を交わすなどして、日常のお付き合いを深められるよう努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方に相談を受けた場合、認知症の方の理解や支援方法を分かりやすく説明し、アドバイスできるようにしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所で行っている取り組みやサービスの状況、イベント等を報告している。市町村・包括・町内会の方からの意見をいただき、サービス向上に活かしている。	1階の小規模多機能ホームと合同開催し、地域代表や地域包括センター、行政、利用者に加え、今年から地区活動センター所長が参加している。防災対策を含めた町内会との協力体制の確立や認知症カフェの開設など、事業所活動への助言や地域情報を提供いただき、サービスに活かせるように取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に市町村からも参加してもらい、サービスについての助言等をいただいている。	市の担当者が運営推進会議の委員として出席している。社会福祉関係の制度や特に介護保険制度改正等について、適切な指導助言を得ている。管理者は市主催の研修会にも参加し情報交換をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	社内研修を行い、全職員へ周知している。具体的な内容を正しく理解できていない職員や忘れてしまう職員がいるので、定期的な研修を行い正しい理解が出来るようにしている。	身体拘束の禁止行為については、定期的に法人内研修を行なっている。ダメ、待って、まだ、など不適切な言葉づかいはお互い注意し合い、カンファレンスで禁止行為の再確認しながら拘束のない支援に努めている。ふらつきのある利用者1名が家族の了解のもとにセンサーマットを利用している。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内で行う研修や外部研修にて学ぶ機会を設け虐待防止に努めている。			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	入居者の中で制度を利用している方がいるため、学ぶ機会が持てている。			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には一方的な説明にならないように、不安や疑問点について伺い、理解していただいている。			
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	お客様アンケートや直接意見や要望をいただいたりしたことを職員全員で周知し、サービスに反映させている。	法人として「お客様アンケート」を家族や関係の医師、看護師、更に取り引き事業者も含めて毎年行っている他、ホームの行事で家族が来訪された際にも直接聴いている。ホームに寄せられた意見はカンファレンスで検討し話し合い、研修を重ねながらサービスの向上に努めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	事業所内会議を毎月の法人会議の後に行い、運営と業務改善についての話し合いを行っている。	日々の申送り時や毎月の会議で運営や業務改善について職員の意見を聴いている。光熱費の節約や介護食の工夫の提言等があり、具体的な省エネの実践や刻み食利用者の食事をソフト食や普通食に改善するなど、職員意見を運営の改善に生かしている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年2回、自己評価を実施し、評価を基に管理者と面談を行い、各自が目標を持って働けるよう努めている。			
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	OJTやoff-JTを行い、職員に合わせてスキルアップが出来るようにしている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	GH協会主催の研修会への参加を通じて、情報交換を行い、交流を行っている。		
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の話を聞き、安心してもらえるように支援している。 日々の生活の中で、言葉だけではなく行動からも読み取り関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との面談の時間を設けて要望を聞くようにしている。 また、家族との連絡を密に行い、要望や意見を伝えやすい環境作りをしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その都度、本人と家族の意向を確認し、サービスを提案している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人の出来る事を見極め、個々に役割を持ってもらうことで、出来ている事を継続できるように支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の意向を伺いながら、ケアに反映させている。 家族が受診介助を行ってくれたり、本人が好きな食べ物や飲み物を持ってきてくれたりしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の他に友人や親戚が面会に来た際には、写真を撮らせていただき居室に飾ったりして関係が途切れないようにしている。 こちらから出向くことはないの、今後の課題となっている。	友人・知人の来訪は徐々に減少しているが、面会に来てくれる親戚の方から聞いて馴染みの人に声を掛けたり、また、以前住んでいた地域に行ってみたいなどの意向を汲み取りながら、小旅行や個々の外出支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	会話を仲介しながら、トラブルなく作業を一緒にできるように配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	事業所内で行っているイベント等の案内をさせていただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	普段の何気ない会話の中や行動から想いを探り、記録に残したり、カンファレンスで職員全員で共有し、把握している。	日々の会話や表情からの気づきを大切に、時には居室やくつろげる環境で、利用者に寄り添いながら思いの把握に努めている。過去の自慢話や家事手伝いの希望、夕暮れ時に発する郷愁の思いなど、その都度記録し職員間で話し合いながら介護計画の見直しにも生かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時にご家族様より情報収集を行い、その情報を基に本人からも聞いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者の個別記録から生活スタイルや心身の状態を把握し、職員で共有している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	週1回、カンファレンスを行い、課題やケアについての意見やアイデアを出し、反映させている。	利用者の担当制を採っている。担当者が中心に本人の状況をまとめ、職員全員によるカンファレンスで検討し、その上でケアマネジャーが介護計画を作成している。家族の意向と異なることもあるが、本人の機能に応じた計画を心がけている。定期的見直しは3か月毎としている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	本人が発した言葉や行動等を個別記録に記入している。 個別記録は出勤時に必ず職員が目を通し、情報共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	急な受診介助や病院への送迎を行っている。 本人、家族の希望を聞き、最善のサービス提供ができるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のスーパーや近所の商店へ買い物へ行ったり、町内会のイベントに参加したりしている。			
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居者が希望するかかりつけ医や事業所協力医と連携を図りながら、適切な医療を受けられるようにしている。	利用者は夫々のかかりつけ医を持っている。受診は家族同行対応とし、送迎のみ職員が対応している利用者もいる。4名の方が訪問診療を受診し4機関の医師が訪れている。家族や医師との情報交換を密にしており、緊急時は協力医との連携を取れる体制にあり、適切な健康管理、医療受診となっている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	定期訪問時に、変化があった方等の情報や気づきを報告している。			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医、看護師と連絡を取り合って情報交換を行い、早期に退院できるように調整をしている。			
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化対応、終末期ケア対応方針を作成し、入所時に本人・家族へ説明を行い、現時点での希望を伺っている。訪問看護立ち上げに伴い、より充実した医療連携が取れるようになってきている。	終の棲家として、重度化対応や終末期ケアを手掛けることの方針が、職員の理解と共有の下で、開設時から掲げられている。意向は入居時に確認し、利用者の多くがホームでの看取りを希望している。医療機関等の協力の下で、家族と共に看取りを行っている。看取り後のカンファレンスは、家族の感謝の言葉とともに、職員、利用者家族の心のケアの大切な場となっている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人の全体会議や事業所会議で研修を行っている。また、外部研修へ参加し、緊急時の対応に備え実践力を身に付けている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回1階の小規模多機能と合同で避難訓練を実施している。 地域の協力体制がまだ十分に確立されていないのが課題である。	法人の災害対策の下でグループホームの具体的避難マニュアルが作成され、それに基づいて小規模多機能ホームと合同で年2回、火災想定避難訓練を実施している。ホームは2階に居室があり、車いす利用者が特に夜間災害時の避難、安全確保には困難が予測されることから、地域の協力を得たいと考えているが、十分な働きかけはこれからとしている。	町内会員である「ぬぐまるの家」も町内防災組織に組み入れていただき、消防署の指導も得ながら、訓練のあり方と協力体制の確立について運営推進会議等で引き続き検討されると共に、職員一人体制下の避難誘導訓練を更に重ねられることを期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの性格を把握し対応しているが、慣れあいになりすぎて配慮に欠けた言い方や対応にならないようにしている。	人生の先輩としての尊敬の念を基礎に、一人ひとりの性格を把握し利用者のプライドを尊重し、日々の支援に努めている。馴れ合いにならないよう言葉遣いに気を付け、入浴や排泄誘導の声掛け、介助時は特に羞恥心に配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	会話を通じて希望や要望を引き出したり、二者択一にして選べるようにしたりと、本人が決定しやすいようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	体調によって入浴日や時間を変更したり、食事の時間をずらしたりと本人のペースや状況に合わせて支援を行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洗面、入浴時にブラシで髪を整えたり、衣類交換時には好みの衣類を職員と一緒に選んだりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	献立を決める時に希望を聞いたり、ホットプレートテーブルを持って行き、座ったまま作業が出来るような献立を適宜取り入れている。 片付けは職員と一緒にやっている。	朝食の副食は外注だが、昼食、夕食は利用者と共に調理している。食事は、童謡等のBGMをバックに個々のペースに合わせて職員との会話や支援を得ながらゆったりと摂っている。月2～3回はお楽しみメニューの日とし、食卓で焼きそばやおにぎり作りを楽しみ、誕生日には希望に応じて職員が個別に対応して外食に出掛けている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	好みの飲み物を提供したり、食べ方を観察して一人ひとりに合った食事量や形状にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	本人が出来るところまで任せて、仕上げ磨きを行っている。 口腔ケア用品をその方に合わせて選定している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表にチェックを行い、排泄パターンを把握するようにしている。 定期的に声を掛け、トイレで排泄できるように支援している。	排泄の支援は個々のリズムを把握し、さりげなく誘導しながらトイレで行なうことを優先している。排泄ケア用品は各自の機能に合わせて併用している方が多いが、4名が自立している。夜間もトイレに誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食物繊維や乳製品をメニューに取り入れている。 また、水分量のチェックや腹部マッサージ、体操、散歩等身体を動かす機会を持つようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調や本人の気持ちを尊重し、気分良く入浴していただけるよう配慮している。	入浴は一日3人の予定で頻度は週2回を目途にし、その日の体調や気分で時間帯や入浴日を変えている。週2回の入浴と合わせて毎日足浴が必要な方もいる。時節にはゆず湯や薔薇湯で香も楽しめるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人が休みたい時に休んでもらっている。 夜間は、照明や空調管理を行い、安心して休んでいただける環境を整えている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報を閲覧できる場所にファイルしており、薬変更時には申し送りノートに記載し、情報を共有して状態の変化を観察している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	毎日の家事の他に、歌を歌ったり、カルタ、トランプ、風船バレー等のレクリエーションを取り入れ気分転換を行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望を聞き、できるだけ外出するよう支援している。 年間行事予定を立て、年2回の小旅行を計画している。	暖かい日は玄関先のベンチでの日光浴や周辺の散歩、家庭菜園の見回りで外気にふれて気分転換をしている。食材の買い出しに職員と出かける方もいる。小旅行ドライブでは、近隣の花見や八幡平の紅葉狩りに出かけ、外食も楽しめるようにしている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金を所持している方はいない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自分から電話をかけたいと言う方はいないが、家族からかかってきた電話で話をしたりしている。 また、家族からの手紙やお花をいただいた時にお礼の手紙を書いたりしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じられるように飾りを壁面などに装飾して、心地よい空間で過ごせるようにしている。	共有のスペースにはひな壇が飾られ、各トイレのドアには小鳥や草木が淡い色彩の切り絵シールで飾られ、加湿器には次亜塩素酸入り水を入れるなど、季節感や色彩、衛生面にも気配りし明るく落ち着いた雰囲気醸成されている。壁面には利用者の切り紙作品も飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや畳のスペースを利用して入居者同士や職員と一緒にゆったりと過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていた布団や家具などを持参してもらっている。 家族や思い出の写真を飾っている方もいる。	各居室の入口には利用者毎に好みの目印をつけ、一部畳敷の居室には多目的棚やパネルヒーター、ベッド・エアコンが設備されている。夫々に使い慣れた寝具や座卓、テレビ等を持参し、来訪の家族、知人と一諸の写真を飾るなど個性的な設えにしている。掃除は利用者と共にやり整理整頓されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自分の居室が分からなくなる方には、目印を付けて案内している。 トイレは居室の扉と違う色と模様がついてあり、分かりやすいようにしている。		